

DOCTOR'S MAGAZINE

12

ドクターズマガジン

ドクターの肖像

医療法人 北斗会 理事長
さわ病院 院長

澤 温

Voice — 編集部が聞く —

社会医療法人 北斗 理事長

鎌田 一

時代を支える女性医師

杏林大学医学部付属病院 麻酔科教授

萬 知子



『日本プライマリ・ケア連合学会 基本研修ハンドブック』

Book

日本プライマリ・ケア連合学会・編／南山堂発行

日本プライマリ・ケア連合学会の専門医制度である「家庭医療専門医」を養成するための教科書として刊行された。後期研修医の学習、指導医の留意点に力点を置き、特にポートフォリオ作成の重要性を説いている。

日本では医師養成のポートフォリオ活用はまだ発展段階にあるが、高齢患者などの複雑な問題に、アプローチしながら学習していくのに、最適な手段であることを、日本プライマリ・ケア連合学会の前理事長の前沢政次氏は、本書に寄せている。現在、日本プライマリ・ケア連合学会は、専門医制度の整備を進めている日本専門医制評価・認定機構にも加盟し、専門医としての総合医(仮)が注目されており、総合医を目指す学生・医師、さらには指導医に必読の書となりそうだ。

価格：4200円(税込)



胃ろう、抗がん剤、延命治療をいつやめますか？ 『「平穏死」10の条件』

Book

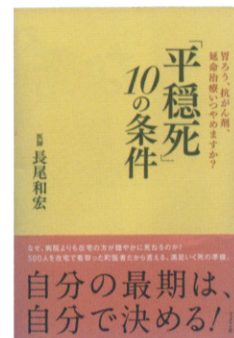
長尾和宏・著／ブックマン社発行

「いくら平穏死を強く望んでも、簡単には叶わない時代に我々は生きていく」。兵庫県尼崎市で開業し、長年在宅医療を手掛ける長尾クリニック理事長の長尾和宏氏はそう痛感したという。

平穏に最期を迎える「平穏死」。長尾氏は、なぜ平穏死が難しいのか、平穏死を迎えるためには何を準備すればいいかを、一般向けに説いたのが本書だ。「看取りの実績がある在宅を探そう」「救急車を呼ぶ意味を考えよう」「24時間ルールを誤解するな」など、10項目に関して具体的な心構えと行動を提案している。また、最近、脚光を浴びている胃瘻についても、詳しく解説している。

長尾氏は「ドクターズマガジン」2012年5月のVOICEにも登場し、地域医療や在宅医療について数々の著書も執筆している。

価格：1399円(税込)



IFMSA寄稿

「IFMSA 世界総会」

今回は世界90カ国から1000人もの医学生が集結した、IFMSA (国際医学生連盟) 世界総会の様子をお届けします。

IFMSA-Japan(国際医学生連盟日本)の本部組織であるIFMSAは、1951年にヨーロッパで設立されました。世界で唯一WHO(世界保健機関)やUNESCO(国連教育科学文化機関)、WMA(世界医師会)に公認されている医学生NGO団体です。2012年8月現在、IFMSAには107ヶ国が加盟、世界最大の規模を誇っています。

IFMSAでは年に2回、3月と8月に世界総会という大きな会議を開催しており、世界中の医学生が一堂に会し、一週間を共にします。

今年の夏の世界総会は8月の9～15日にインドのムンバイで開催され、参加した医学生は1000人にも及びました。

この総会では、毎日午前中にIFMSAの活動のメインとなる6つの常設委員会(臨床交換留学、基礎研究交換留学、公衆衛生、人権と平和、性と生殖・エイズ、医学教育)のワークショップが行われます。各委員会で



は毎回様々なテーマを設定してディスカッションを行い、そのテーマに関する各国の状況を互いに共有しています。

また、その他にも各国の医学生が自国で行なっているプロジェクトをブース形式で紹介するProject FairやProject Presentationを通して、各国で何が問題となっているのか、そしてそのために医学生がどのような活動をしているのか知ることができます。

それに加えて、IFMSAの公認トレーナーによるリーダーシップやファシリテーション、チームビルディングなど、さまざまなスキルを身につけるためのトレーニングや、外部講師を招いてのテーマイベント、アジア太平洋

地域でのミーティングなど毎日プログラムが目白押しです。

夜には各国の代表者が集まる総会本会議があり、その中では規約の改正や新しいプロジェクトの承認、Policy statement(社会に対する提言)の採択が行われます。時には激論が闘わされ、今回の世界総会では夜の7時から朝の6時まで続いた日もありました。

このように90ヶ国もの医学生と1週間を共にできることは、私達にとって非常に貴重な体験です。普段の生活では決して出会う機会のない国の学生と宗教や政治的状况に関係なく将来の医療について互いに議論し、時にみんなで歌ったり踊ったりすることで、世界との距離がぐっと縮まったような感覚を覚えました。今回参加した15人の日本人参加者も世界中の医学生から刺激を受け、新しいスキルやアイデアを得ることができたようです。この世界総会で得たものを日本に還元し、よりよい活動を目指したいと思います。

文責：国際医学生連盟 日本
副代表外務担当 亀谷 智子